



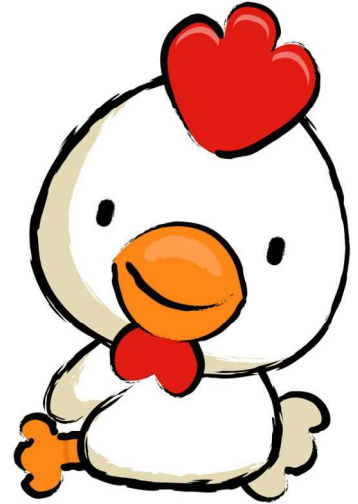
鹿児島県立甲南高等学校

進路指導室だより

平成28年度 第8号 (2017年1月16日発行)

★2017年がスタートしました！★

昨年はみんなにとってどのような1年だったでしょうか？上手くいったこと、上手くいかなかったこと、いずれもあったでしょう。上手くいったことには満足せずこれからも精進し、そして上手くいかなかったことには原因をよく考えて少しずつ改善していきましょう。気負いせずにコツコツ継続していくことが、ゴールに確実に近づく方法だと思います。2017年が、甲南生全員にとって更なる飛躍の年となることを祈願します。



さて、3年生は昨日・一昨日とセンター試験を受験しましたが、力を出し切れたでしょうか？ホッとする間もなく、すぐに二次試験の出願手続きが待っています。センター試験までは所謂「団体戦」でしたが、ここからは「個人戦」がスタートします。各自が出願する大学の試験に向けて努力しなくてはなりません。受験する科目に絞っての勉強となりますから、じっくりと取り組んで下さい。

以下は、少し古いですが、ある記事の抜粋です。(引用先：Rese Mom リセママ)

『東進は、東京大学へ現役合格した東進生の合格祝勝会にてアンケートを実施。同塾が発行する大学進学情報紙「東進タイムズ」に結果を公開しており、東大合格者の84.8%が受験勉強をおもしろいと感じるようになっていたことがわかった。

東大合格者に「受験勉強を通して、勉強をおもしろいと感じるようになったか」と質問したところ、84.8%が「YES」と回答。その理由は、「ストーリーがあり楽しい」「解法に感動する」「身の回りの現象を理解できる」など、受験勉強の過程で学ぶことの楽しさや、学びによって世界が広がったという感覚を得る経験をしていた。』

受験勉強のどこが楽しいの？と思う人もいるかもしれませんが、実際に二次試験対策をするうちに、「最近、勉強が楽しくなりました」「すごく毎日が充実しています」と言う先輩たちがいました。その先輩たちは難関大と言われる大学に無事合格していきました。どうやら、学ぶことに楽しさを見だし、学んだことが教科の垣根を越えて、繋がってききたらしいのです。実は、大学そして社会人となるにつれ、いろいろな場面で今まで知識として学んだこと、経験として学んだことが繋がってきます。「学んだことは決して無駄にならない」と言うのは本当なのです。

受験である以上、合格・不合格の判定は出ますが、受験勉強で学んだことは今後の人生で必ずプラスになります。学ぶことが自分の生き方をプラスにするんだ！との気持ちで、受験を乗り切ってください。

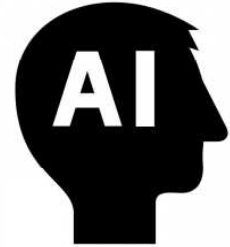
1, 2年生も先輩たちに負けること無く、更には先輩たちの上を目指して取り組んでいきましょう。伝統ある甲南高校の111周年目を君たちの手で作り上げて下さい。

今回はA I (Artificial Intelligence : 人工知能)をテーマに考えてみましょう。

「将来的になくなるであろう仕事」の話は、既に幾度となく聞いたことがあるでしょう。この話は、オックスフォード大学でA Iなどの研究を行うマイケル・A・オズボーン准教授の論文「雇用の未来」から引用されています。

★主な「消える職業」「なくなる仕事」

- ・銀行の融資担当者 ・スポーツの審判 ・不動産ブローカー
 - ・レストランの案内係 ・保険の審査担当者 ・動物のブリーダー
 - ・電話オペレーター ・給与・福利厚生担当者 ・レジ係 など
- これに対して、



★主な「なくならない仕事」

- ・最前線のメカニック，修理工 ・聴覚医療従事者
- ・メンタルヘルスと薬物利用者サポート
- ・作業療法士 ・栄養士 ・振り付け師 ・内科医と外科医
- ・心理学者 ・警察と探偵 ・歯科医師 ・小学校教員 などが挙げられています。

なくならない理由としては、ロボットやコンピューターは芸術などのクリエイティブな作業には向いていないためと言われているからです。

ところで、既に身近なところでA Iが使われているのを知っていますか？

- ・スマートフォンの音声応答 ・グーグル検索

どちらも、よく利用しているのではないですか。また、将棋，チェスにおいては既に人間の実力を上回っているとされています。医療関係や自動車の自動運転等，世の中を更に便利にしてくれると思われるA Iですが，大変危惧される問題も指摘されています。

人工知能は「強い人工知能」と「弱い人工知能」に分類できます。「強い人工知能」とは意識を持った人工知能で，未だ実現していません。現状の人工知能はすべて「弱い人工知能」です。「弱い人工知能」は特定目的の人工知能で，例えばチェスや将棋をする，クイズ番組に答える人工知能です。既に特定の分野における最強の人間より賢くなっています。そして「強い人工知能」が実現したとき，つまりA Iが意思を持ち始めたとき，S F映画のような世界が生まれてしまうと言うのです。古くは『2001年宇宙の旅』のHAL9000，代表格としては『ターミネーター』のスカイネットがありますね。

物理学者のステイーブン・ホーキング氏は「完全な人工知能を開発できたら，それは人類の終焉を意味するかもしれない」，またMicro Softのビル・ゲイツ氏は「A Iをうまく管理すれば，これ自体はプラスに評価できる。だが，こうした状況から数十年後には，知能が強力になり，懸念をもたらす」と述べています。2045年問題は，この危惧される問題を予想したものです。

レイ・カーツワイル氏はムーアの法則(集積回路の密度が18カ月から2年で倍増するという予測)を拡張し，進化の法則はコンピューター・チップだけでなく，宇宙のあらゆる現象に適用できると考え(収穫加速の法則)，人工知能の性能が全人類の知性の総和を越える「(技術的)特異点，シンギュラリティ」(Technological Singularity)と呼ばれるものが，2045年に来ると予測しています。このため「シンギュラリティ」は2045年問題とも呼ばれています。人間が作った物が，やがて人間を凌駕するかもしれないと言う訳ですから，今から28年後はどんな時代になっているのでしょうか。

この頃，君たちは40代前半です。その時代を自分らしく生き抜くためにも，創造性・自性性を持ち続けられる大人を目指して下さい。さあ，早速行動開始です！

参考資料(NHK NEWS WEB, エコノーツ, THE HOFFIKINGTON POST)